

平成30年度 認知症介護研究・研修東京センター 成果報告会
「認知症ケアセミナー」

(2016年度全国生協連グループ 社会福祉事業等助成事業)

ひもときシートを活用した 事例収集による BPSDの理解とケア

目的

ひもときシートを活用して、ものとり妄想・収集に対する実践事例を収集・分析することにより、ものとり妄想・収集の状態に効果的なケアについて検討する

方法

1. ワーキングチームでの検討
2. ひもときシートを活用した事例収集

【倫理的配慮】 協力者・協力施設に、「研究協力は任意、協力しないことによる不利益はなし、途中取り消し自由、調査結果の匿名化、研究結果の公表の方法、研究データの保管方法等」を説明し同意。（認知症介護研究・研修東京センター倫理委員会の承認）

調査の概要

- 協力者募集：指導者ネットワークメーリングリスト
- データ収集担当：認知症介護指導者
- 調査時期：平成29年10月1日～12月15日
- 調査場所：グループホーム、小規模多機能型居宅介護支援事業所、デイサービス
- 調査方法：縦断介入研究（2週間～1か月）・ひもときシート利用
- 評価指標
（ものとられ妄想）NPI-Q、訴えの時間×訴えの回数
（収集）NPI-Q、見かけた頻度
- 分析：NPI-Qまたは、訴えの時間×重症度が軽減した事例で実施されたケア及び中止されたケア等を研究担当者により分類。

ものとられ妄想の検討

ワーキングメンバーの意見のまとめ

- 背景に「不安感」があるので、もの盗られ不安等の方が適切ではないか。
- 他の利用者に慣れていないなど、「他者との関係性」の影響が大きい。
- 認知症の人が盗られたと思っている物や誰が盗ったと誤解しているかなど、ものや人が理解のヒントになる。
- 実際に何かを紛失している場合があるので、無くさないようなケアを念頭に置くことが必要。
- 具体的に盗られたという訴えがなくとも、何かをずっと探している場合もある。訴えがないことだけをもって、良しとしない。

対象者の属性

	利用サービス	要介護度	認知症 高齢者の 日常生活 自立度	原因疾患
A氏	通所介護	要介護1	Ⅱb	鑑別なし
B氏	小規模多機能型 居宅介護	要介護2	Ⅱb	鑑別なし
C氏	グループホーム	要介護2	Ⅲa	AD
D氏	グループホーム	要介護3	Ⅲb	AD

ものとり妄想の犯人（複数回答）（n=4）

種別	人数
他の入居者	3
スタッフ	2
侵入者	1
その他	3

NPI-Q及びものとり妄想の回数・時間の変化

		取組み前	取組み直前	ケア実施後	直前・ケア実施後の差
A氏	合計時間	4	3	2.5	-0.5
	合計回数	4	2	3	1
	NPI-Q	-	12	12	0
B氏	合計時間	20	28	13	-15
	合計回数	16	19	9	-10
	NPI-Q	-	40	23	-17
C氏	合計時間	12	11	8	-3
	合計回数	25	27	11	-16
	NPI-Q	-	15	16	1
D氏	合計時間	7	6	6	0
	合計回数	13	11	7	-4
	NPI-Q	-	23	21	-2

ひもときシートに記述された認知症の人の意欲

中分類	小分類
周囲の人と仲良くしたい	<ul style="list-style-type: none"> ■まわりの方と仲良く話をして過ごしたい
どこに何があるかわかるようにしたい	<ul style="list-style-type: none"> ■自分のものと他者のものを区別することが難しくなってきたので、私の記憶障害を適切に把握し、私にわかるように説明してほしい。 ■大事なものが見つからない
自分の置かれている状況を理解・把握したい	<ul style="list-style-type: none"> ■とにかく不安で心配だが、何がどのように不安で心配なのか自分でもよくわからない
親身に話を聞いて、大切にほしい	<ul style="list-style-type: none"> ■適切に表現することが難しいので、まわりの人たちが私の言葉や行動、生活歴からひもといしてほしい ■もっと自分の話を聞いてほしい ■自分を信用してほしい ■自分の周りの人に自分の訴えを理解してほしい

4事例において原因として記述された内容

中分類	小分類
認知機能障害により、現実見当識が低下している	<ul style="list-style-type: none"> ■自分のものと他者のものが区別できない ■睡眠薬の影響により体験したことを記憶していない ■記憶障害により忘れてしまう ■疾患から直接生じる幻覚・妄想の影響
自分のことは自分でできるし、自分でしたいと思っている	<ul style="list-style-type: none"> ■自分のことは自分でしたい ■筋肉縮を見せたくない ■本人よりも手早く行う他者が多くいるため十分に能力を発揮できていない ■面倒を見てきた人がいなくて大丈夫か心配
寂しさ、疎外感を感じている	<ul style="list-style-type: none"> ■故郷に対する恋しさ ■家族と疎遠で寂しい ■他の利用者から避けられる ■スタッフが積極的にかかわらない ■周囲の人が仲良くしているように見えて疎外感を感じる
体調が整わず不快がある	<ul style="list-style-type: none"> ■体に痛みがある ■便秘により不快である ■睡眠が不十分であり眠い
スタッフのサポートが不十分だったり否定されたりする	<ul style="list-style-type: none"> ■スタッフに盗っていないと否定される ■スタッフが認知症の人の中核症状に配慮した関わりができていない
不快な物理的環境におかれている	<ul style="list-style-type: none"> ■温度・湿度が合わない

4事例において実施されたケア

実施時期	中分類	小分類
事前	痛みへの対応	■痛みへの対応
	訴えを傾聴する	■他の利用者を交えて複数で話を聞く
	好きな話・好きなことをする	<ul style="list-style-type: none"> ■本人の好きな話をする ■本人の好みを調べ、活動に入れる（お気に入りの歌を確認して、合唱でその歌を入れる）
	一人でいる時間を減らす	<ul style="list-style-type: none"> ■1時間おきに困りごとを確認する ■朝、夕食時は食堂に誘導する
	部屋を整理する	<ul style="list-style-type: none"> ■安定しているときに部屋を整理する ■収納用のBOXを用意し、本人とスタッフが一緒に整理する
	物の場所が分かるように掲示する	■物やタンスに掲示する
	トラブルを避けるため、間に入る	■認知症がない他のご利用者には症状から来るとられ妄想の説明を行い、理解を深める
	治療中の疾患の勉強会を行う	■パーキンソン病の症状について、スタッフ向けに勉強会を行う
	個別援助計画を見直す	■基本対応表の見直し
	再度情報収集し、チームで共有する	<ul style="list-style-type: none"> ■ケアカンファレンス ■生活歴を再度、ご家族に確認する ■本人の中核症状の進行度をアセスメントする ■再アセスメントを行ない、理由のヒントをつかむ
事後	意識をそらす	<ul style="list-style-type: none"> ■症状が出たのちに役割を提示する（盗られたとなった時、食事の準備をしてもらう） ■違う話題になるように仕向ける
	一緒に探す	■一緒に探す
	訴えを傾聴する	■話を聞く（訴えを傾聴する）
	盗っていないことを説明する	■盗っていないことを説明
	刺激を避ける	■不穏な時は刺激を避ける
	トラブルを避けるため、間に入る	■盗られたという訴えが生じた場合、他の利用者との間に入る

軽減事例（3事例）で実施されたケア・中止されたケア

	中分類	実施時期	小分類
新しく実施されたケア	訴えを傾聴する	前	■他の利用者を交えて複数で話を聞く
	好きな話・好きなことをする	前	■本人の好きな話をする ■本人の好みを調べ楽しめる活動を入れる（お気に入りの歌を確認して、合唱でその歌を入れる）
	部屋を整理する	前	■収納用のBOXを用意し、本人とスタッフが一緒に整理する
	再度情報収集し、チームで共有する	前	■生活歴を再度、ご家族に確認する ■本人の中核症状の進行度をアセスメントする ■再アセスメントを行ない、理由のヒントをつかむ
継続実施されたケア	痛みへの対応	前	■痛みへの対応
	物の場所が分かるように掲示する	前	■物やタンスに掲示する
	再度情報収集し、チームで共有する	前	■ケアカンファレンス
	個別援助計画を見直す	前	■基本対応表の見直し
	意識をそらす	後	■違う話題になるように仕向ける
	訴えを傾聴する	後	■話を聞く（訴えを傾聴する）
中止されたケア	盗っていないことを説明する	後	■盗っていないことを説明
	意識をそらす	後	■症状が出たのちに役割を提示する（盗られたとなった時、食事の準備をしてもらう）

- ・ 認知症の人がものを盗られたと感じる背景
 - ・ 単にどこに何があるかわからない
 - ・ 自分のことは自分でできるし、自分でしたい
 - ・ 周囲の人と仲良くしたいといった気持ちがある
- ・ しかし、ものを盗られたと主張することで、スタッフや周囲の利用者から否定されたり、避けられたりする
- ・ 結果、さみしさや疎外感を感じる場面が発生し、体調や環境の不快感も相まって、さらに状態の悪化を助長
- ・ これらを念頭に置いた事前のケアがより多く記述された。
- ・ 軽減したと解釈したケースにおいては、ものとられ妄想が発生した後のケアが中止され、発生する前のケアが実施されるケースが多かった。
- ・ 「意識をそらす」が、継続実施されたケアにも中止されたケアにもあるなど、さらに検討を要する部分もある。

収集の検討

・ワーキングメンバーの意見のまとめ

- 背景に「手元においておきたい」「（集めているものが）必要だ」という気持ちがある。
- もの盗られ妄想と同様に背景に「不安感」がある。集めたいという気持ちを自己コントロールできていない状態である。
- ほしいものを集めること自体は悪くないため、収集を過度に抑制しないでよい。ただし、不安を背景にして集めているとすると、解消をめざすべきである。

対象者の属性

	利用サービス	要介護度	認知症高齢者の日常生活自立度	原因疾患
E氏	グループホーム	要介護2	Ⅲa	AD
F氏	グループホーム	要介護3	Ⅲa	AD
G氏	グループホーム	要介護4	Ⅲa	鑑別無し

収集するもの（自由記述）

E氏	ティッシュペーパー、トイレットペーパー、尿とりパッド、コップ、鉛筆、歌集
F氏	新聞、ペーパータオル、テーブルの上に載っているもの（一定したものではない）
G氏	トイレットペーパー、ティッシュ、タオル、パット、靴下

収集の頻度及びNPI-Qの評価結果

		取組み前	取組み直前	ケア実施後	直前・直後の差
E氏	収集の頻度	5	5	4	-1
	NPI-Q	-	15	12	-3
F氏	収集の頻度	3	3	2	-1
	NPI-Q	-	17	18	1
G氏	収集の頻度	5	4	3	-1
	NPI-Q	-	37	33	-4

軽減ケースで実施されたケア

実施時期	ケアの分類	具体例
事前	再アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ■再アセスメントを行い、持っていく理由のヒントをつかむ ■なぜ持っていくのか本人に改めて聞いてみる ■本人の中核症状の進行度を再アセスメントする ■本人が認識できる書き言葉と話し言葉を再確認する
	認知症の人が分かるように情報提供する	<ul style="list-style-type: none"> ■「私わからないの」ということがあるので、ゆっくりと分かりやすく説明していく ■わかりにくい会話の中でも、本人の望みや訴えを理解する努力をする ■活動を行う際、一度説明した後でも、隣で一緒に同じ活動を行う ■言葉かけをセーブして、最小限の言葉かけをする
	認知症の人の話をよく聞く	<ul style="list-style-type: none"> ■本人の言葉に耳を傾けていく
	持っていくことを否定しない	<ul style="list-style-type: none"> ■持っていったらダメ等言いたくなるが、言わないように統一
	ほしいものを渡す、すぐに利用できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ■排泄後は、大事に持って下さいと、ペーパーを1枚手渡す。または腹部から出てきたペーパーを手渡す。 ■排泄時、腹部から靴下など出てきたら預かり、本人のタオル等を腹部に入れてもらう ■他者の居室のハンガーに掛っている服を着てくるので、居室に衣類かけを設置し、好きな時に着れるようにする
活動中無くさないよう注意する 整理整頓をする	<ul style="list-style-type: none"> ■良くなくすものは、本人の動作を観察し、物がなくならないように動作を手伝う ■毎朝居室内の整理整頓をする。 	

軽減ケースで実施されたケア

実施時期	ケアの分類	具体例
事後	他利用者との間に入る 文字で情報提供する	<ul style="list-style-type: none"> ■他者との間に入り、会話や交流が持てるように支援していく。 ■紙類が置いてある傍らに『皆で使用します。必要な分だけお持ちください』を表示してみる

軽減ケースで実施を取りやめたケア

- 何をもって行ったか、どこにもっていったかをさりげなく確認する
- 自分以外のものをもって行こうとされる際、「これは●●さんのものではありません」と伝える

研究をふまえDVDを作成しました。



ご自由にお持ちください